

あい、しかも定休日是一日と十五日だけである、尙この間に家庭を訪問して實地調査をされるときは敬服の外はないのである、宜なる哉迎に來る親の顔には感謝と希望の光が輝いて見える、一人の車夫は妻に別れ二人の兒をこゝに托して一日働いて居るが今日は仕事が多かつたと見え常よりは少し早めに迎に來て二人の子供を車にのせ子供は喜ぶ顔に自分も喜び欣喜として車をひいてかへつたには思はず涙のこぼれるのをどうする事も出來なかつた。

尙本願寺が震災後經營された事業は震災後直ちにハガキ班をつくり十班の人々が一萬枚位のハガ

お茶の水の幼稚園の焼け跡に立ちて

倉 橋 生

くづれた煉瓦と、うづ高い灰と、焦げた木材の破片との中に、土臺の据石だけが整然と残つて居る。それが各室の位置と區劃とを、さながらに示

きを買ひ集め鉛筆と箱を持つて要所／＼に陣どり用事のある人に書かせたり書いて與へたりして之をあつめ大宮に持つて行つて投函した。又多くの應援者を派出して死人の焼場や倒れ人のある處で讀經をさせた等である。之等の事が終らぬうちに一方では託兒所、無料宿泊所、移動浴場、食堂、文庫、醫療班、人事及子供相談所、衣類其他の配給等について活動された、衣類其他の物品は全國にある三十六教務所に屬する一萬餘の末寺が協力して寄贈されたもので驚くべき多數に上つたものである。

して居るのも却つて佗しい。丁度前日、外部全体の塗換ね工事を終つて、實に何十年振りの新装に美を凝らした、あの幼稚園を、今此の姿に於て見

ようとは、餘りに思ひがけかいことである。

私は、先づ事務室の位置に立つて見た。それから廊下を通り抜けて、遊戯室へはいつた、その右手の玩具室にもはいつた。それから、組の室を一つく通つて見た。山の組へ、海の組へ、森の組川の組へ、林の組へ、たゞ氣せわしそうに通つて見た。そして、私の見たものは、たゞ「無」であつた。ほんとうに何も残つてない「無」であつた。

私は、もう一度事務室へ来て、私の椅子を置いて居たところへ立つて見ようとした。その時、灰の中に、赫く焼けねぢれた圓板の様なもの、靴にあつた蓄音機の金屬部だといふことが直ぐ分つた。私は、ステッキのさきで、それをたゞいて見た。焼けた金屬の音には特殊の響がある。魂のぬけたうつろといつた風の音がした。と同時に、私の耳には、幼兒達の爲に選んだ、あの幾多のレコードの音が響いて来る様な氣がした。私は、急に思ひ出した様に、室の……壁も天井も何もない周圍を見まはした、私の目には、ありくといろく

のものが見えて来る、室の中央には、大きな隋圓形のテーブルが、同僚の笑顔と笑聲との團圓に圍まれて居る。後ろの壁には、古風な獨逸版のフレールベルの肖像が、黒い額縁の中に納まつて居る。其の下には、掘進二氏作の「母と子」の彫塑が、白く立つて居る。正面の壁には、平岡權八郎氏作の「静物」の大額が、鮮かな青と紅との色を見せて懸つて居る。

ふと、幼兒達の晴かな笑ひ聲が聞えて来る様な氣がした。秋は、急に淋しい氣になつて、もう一度、組の室の方へ歩いて行つた。低い四角のテーブルが見える。小さい椅子が見える。房々といお下げが見える。色チヨクで草花の描いてあるグリーンポールドが見える。床の上に散らかつて居る大きな積木が見える。紅く輝くまるい頬が見える。私は小さい手にひつぱられる様にして、廣い遊戯室へはいつた。ピアノにあはせて、スキップの可愛らしい足ざりが聞える。賑かな手拍子の音が聞える。正面には岡田秀作の「富士山」と「太平洋」

との二つの大額が見ゆる。其の窓際には蓋を立てた黒いグランドピアノが見える。右の方の隅には静に幕を垂れた人形芝居の榭舞臺が見ゆる。まわりの壁に沿ふては、懸け並べた、幼児畫の額が見える。私は、つか／＼と窓の南の窓の方へ行つて外を眺めた。目の前に、元氣な男の子を滿載した箱ブランコが見ゆる。小山の上には、草の上に産を敷いてまゝごとをして居る女の子達が見える。

私は庭へ出た。そこには、明るい日光と、葉の廣い大木の軟かな影があつた。「おちさん／＼」とよびながら大勢の子どもが馳けて來た。両腕にぶらさがる。後から肩に飛びつく。私はおされながら砂場のところへ來た。……そして、そこで、今ほんとうに私の目の前に見ゆるものは、焼けたゞれながら纏れ下がつて居る藤棚と、しよんぱりと淋しく残つて居る玄關前の築山とだけであつた。小學校の方も、女學校の方も、寄宿舎の方も、建てものといふ建てものは、何一つ残らず焼けて仕舞つて、ガランとして只廣い敷地内には、本校

お茶の水幼稚園の焼け跡に立ちて

の煉瓦の一部が、毀はれた骨だけ残して、ローマあたりの廢墟の様に立つて居る。其の目の向ふには、頭のとれたニコライの會堂が、ペチャンとして空に見ゆる。私は、あちらこちら校内を一周した後、又もう一度、幼稚園の焼け跡へたつた。私にとつて、一番なつかしいところ、やつぱり、あの幼稚園であつた。そして、今度は、すぐ玩具室の跡へ行つて、灰の中をつゝいて見た。何か淋しい記念になるものでも思つたのである。しかしそんなものは。どう探しても見つからなかつた。ほんとうに何もあかつた。たゞ僅に見出し得たものは、幾つかの陶器製の白い人形の首だけであつた。私は、ぞつとする様な心持ちで、それを拾ひどろうともしなかつた。そして、空しく、灰の中にステッキを立て、佇立しながら、あの怖い日が、まだ幼児の集まらない休暇中であつたことの不幸福の如何に大きな幸であつたかといふことを今更の様に思つて見た。

附記。幼稚園は建物と備品との一切を焼きま

したが、職員一同は、其の家を失つたものもなく、皆無事でありました。茨木校長も御無事で、大災の當日から引續く多端の校務の間に、幼稚園の方のことも深く考へて居られます。坂内、及川新庄、小山、崎山、星、桑原の諸君も私と共に、いづれも變りなく勤務して居られます。目下は、……十月二十二日から……小石川區大塚町の帝國女

子専門學校内に假保育場を開いて居りますが、來年四月からは、假建築ながら、再びお茶の水へ歸る豫定になつて居ります。園舎は焼けても、備品は失つても、わが幼稚園は、幼兒教育の實際と研究との上に、少しの意氣をも咀喪して居るものでないことを、同情ある先輩、同志、友人諸君に申し上げて、御安心を願ひたいと思ひます。

東京市の罹災幼稚園

○日本橋區

- 一、日本橋第一幼稚園 一、坂本幼稚園 一、常盤幼稚園 一、城東幼稚園 (以上公立)
- 一、成志幼稚園 一、梅園幼稚園 一、養徳幼稚園 一、大橋幼稚園 一、日本橋高等女學校附屬幼稚園 一、月島幼稚園 一、啓蒙幼稚園 (以上私立)

○京橋區

- 一、朝海幼稚園 (以上公立)

○麴町區

- 一、番町幼稚園 一、麴町幼稚園 (以上公立)